少年小説大系

明治少年小説集

第六巻

伊藤秀雄編

江苏工业学院图书馆
藏书章

三一書房

少年小説大系　第1巻
明治少年小説集

一九八九年三月三十一日　第一版第一刷発行

尾崎秀樹
監修者　小田切進
紀田順一郎
発行者　畠山滋
発行所　株式会社三一書房
〒113 東京都文京区本郷2の11の3
☎03（812）3131
振替東京9—84160

印刷　株式会社　新栄堂
暁美術印刷株式会社（扉・口絵・函印刷）
製本　株式会社　鈴木製本所
製函　高田紙器

落丁・乱丁本はおとりかえいたします。
ISBN4-380-89547-5
©一九八九年
Printed in Japan

明治少年小説集——目次

三輪　弘忠　少年之玉……九
泉　鏡花　金時計……二五
尾上新兵衛　近衛新兵……三三
巌谷　小波　新八犬伝……五三
与謝野鉄幹　小刺客……九五
黒岩　涙香　談史王妃の怨……一〇七

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

黒岩　涙香　説椿　山と水――佳人ビディ姫の伝――……一六七
南陽外史　魔法医者……三六一
増本　河南　冒険怪話　空中旅行……四二七
滝沢　素水　冒険小説　怪洞の奇蹟……四七九
解説〔付・年譜〕（伊藤　秀雄）……五一七

凡例

一、本大系のテキストは、原則として初出の雑誌掲載のものに準拠した。

一、本大系は、すべて現代仮名づかいにあらため、漢字は原則的に新字体で統一し、拗促音を使用した。

一、明白な誤植、脱字、衍字と思われるものは、これをあらためた。

一、難読漢字には、適宜ルビを補った。

一、カギ括弧、句読点等の用法は、全巻にわたって統一をとった。

明治少年小説集

——少年小説大系　1——

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

三輪　弘忠

少年之玉

首巻

少年書類審査相遂ゲ候処本会募集之主旨ニ適スルモノハ此少年ノ玉ト称スル一部ノミニ有之候仍テ其審査決議書及ビ批評ヲ具シ及進達候也

明治二十三年五月　　少年書類審査委員長　中川　元

大日本教育会長辻新次殿

本会懸賞問題少年書類審査ノ儀ハ該委員ノ審議ヲ適当ト認ムルニ付乃チ貴下ニ賞金拾円ヲ交附ス

明治二十三年七月四日　　大日本教育会長辻新次

三輪弘忠殿

少年ノ玉

本書固ヨリ欠点ナキニアラズト雖亦少年書類募集ノ主旨ニ稍適スル所アルヲ以テ最下ノ賞金拾円ヲ交附スルノ価値アルモノト認ム

明治二十三年七月

大日本教育会少年書類審査委員長　中川　元

大日本教育会少年書類審査委員　林　吾一

鳥居　忱

大森　惟中

岡村増太郎

矢島　錦蔵

山県悌三郎

緒言

本邦ノ人士教育ノ緊要ヲ感ズルモノ未ダ多カラザルヲ以テ其子弟タルモノハ尋常小学科サエ卒業スルモノ少キニヨリ其智識浅薄ニシテ読書ヲ嗜好スルノ習慣ナク卒業ノ後ハ書籍ヲ繙クコトヲナサズ僅ニ知得シタル文字ダモ半ハ忘却シテ数年之ニ費シタル労費モ水泡ニ帰スルコトナシトセズ此在様ヲ以テスル時ハ本邦人士ヲシテ教育ノ緊要ヲ感ゼシメ其隆盛ヲ見ルハ何年ノ後ニ在ルヤ殆ンド想像ニモ及バザル処ナリ、今此教育ノ上進ヲ計ルハ如何曰ク少年ヲシテ已習ノ文字ヲ忘却セシメザルノミナラズ尚未知ノ文字ヲモ習得スルノ欲望ヲ生ゼシム可シ之ヲナスハ少年ノ心性ニ適応スル良書ヲ編纂シ少年ヲシテ読書ヲ嗜好スルノ習慣ヲ得セシムルノ外ニ策ナキナリ特ニ編者茲ニ従ウノ際客年大日本教育会ニ於テ其主旨ヲ以テ広ク世ニ懸賞シ少年教育ノ書類ヲ募集セラレタリ依テ編者ノ精神益強固トナリ爾後此ヲ添エ彼ヲ削リ其十二月ニ至リ漸ク此書稿ヲ脱シ速ニ大日本教育会ニ送リシニ幸ニ募集ノ主旨ニ適スルモノト認定サレ本年七月賞金若干ヲ下附セラレシノミナラズ精細ニ批評ヲ加エラレタルヲ以テ此ニ其主旨ニ従イ充分訂正シテ世ニ公ニスル事トハナシヌ固ヨリ該会ノ此書ニ賞金ヲ加エラレシハ昭王ノ郭隗或王ノ死馬骨ニ外ナラザレバ今後尤モ完全無欠ナル少年教育書類ノ続々世ニ出ンコト編者ノ希望ニ堪エザル処ナリ

明治二十三年八月　　三輪弘忠　誌

編纂ノ要旨

此少年ノ玉ハ、尋常小学第二年卒業以後ノ少年ノ心力ヲ以テ、理解シ得ベク、読下シ得ベキ様、編纂セシモノナリ、故ニ此書ノ成ルヤ、尋常科三年生ヲ会シ、単ニ之ヲ読ミ聞カシメ、又図画ノ箇所ハ黒板ニ記シテ示セシニ、満場少年ノ笑顔ヲ、余ガ眼光中ニ集ムルヲ得タルハ、偶此学校ナル小天地ニ生活スル少年ノ嗜好ニノミ適応セシモノトスルモ、聊カ喜悦ス可キコトナリ、然リ而シテ此ニ、尋常科第二年卒業以上ト定メシ所以ノモノハ、日本ニ於テ、学齢児童ノ就学ノ模様ヲ見ルニ、一度入学セシモノハ、疾病其他止ヲ得ザル事故アル外ハ、多ク二箇年以上修学スルヲ以テナリ、将又第一年卒業位ニシテ、退学スルモノ、其大部分ヲ占ムルトスルモ、斯ノ如キ少年輩ハ、家庭ノ教育モナク、到底其一般ノモノニ、読書ノ習慣ヲ得セシメント欲スルモ能ワザルコトナレバナリ、然シ其学力、尋常小学第二年以下ノ少年ト雖、敢テ此書ヲ読ムコト能ワザルニ非ズ、如何トナレバ、漢字ハ尽ク傍訓ヲ施シ置クヲ以テナリ、

人ノ心意発達ノ階段ハ、凡ソ三期ニ区別ス、第一感覚期、第二記憶期、第三論理期、是ナリ、今之ヲ人ノ年齢ニ配当スルハ、古今学士ノ説種々ニシテ確定シ難シト雖、人生レテヨリ、七歳迄ヲ第一期トナシ、八歳ヨリ十四歳迄ヲ第二期トナシ、十五歳ヨリ二十一歳迄ヲ第三期トナスヲ通常トス、

乃チ、此少年之玉ハ、第二期ノ少年ヲシテ、楽ミテ読マシメント欲スル目的ナレバ、此期ニ当リテハ、心意発達ノ模様如何ヲ穿鑿ス可キコト、最大必要的ナリ、抑此第二期ニ当リテハ、心意自動ノ力、漸ク旺盛シテ、事物ヲ巨細ニ観察シテ、之ヲ記憶セントスル力ト、稍之ヲ推理セントスル力ト、共ニ発生スル時ナレバ、此心力ヲ応用セシメザル可カラズ、又少年ヲシテ、此書ヲ読下スルノ際、興味ヲ覚エシメントセバ、必其情感ニ訴エザル可カラズ、其情感ノ発達スル順序ナルモノハ、最初、五官ノ感覚ニ起リ、漸ク進テ驚懼等ノ簡単ナル情緒ヲ生ジ、進デ道徳審美等ノ複雑ナル情緒ヲ生ズルモノナリ、則此第二期ニ当リテハ、喜怒憂懼愛憎欲等ノ単情発起シ、尚僅ニ道徳等ノ複情ノ端緒ヲ開クノミ、然ラバ此書ハ、此情感ヲ発起シ、又心ノ自動力ヲ奮揮セシメ、且ツ僅ニ推理力ヲ使用セシムル様、編纂セザル可カラズ、夫レ此企望ヲ達セントスル最上ノ趣向ハ、少年ヲシテ実事ニ接シ、実物ニ触レシムルニ若クコトナシ、然レドモ、今此ニモノセント欲スルハ、書籍ノ編述ナリ、豈其間ニ実物ヲ挿入シ、其上ニ実事ヲ顯スヲ得ンヤ、然ラバ之ヲ如何セン、唯五官中、感動ノ最モ鋭敏ナル視官ヲ利用シテ、図画ヲ以テ実際ニ遭遇スルノ思ヲ発起セシムルノ外良策ナキナリ、是レ此編ニ図画ヲ尤モ多ク挿入スル所以ナリ、次ニハ記入ス可キ事項ノ適否ヲ考エザル可カラズ、此期ニ当ル少年ノ心意ハ、極テ活潑ニシテ、常ニ活動スルモノナレバ、動物遊戯戦争等ノ事項尤モ適ス可シ、然レドモ未ダ再現構成ノ力乏シケレバ、繁ナル可カラズ、又密ナル可カラズ、且其事項ハ、少年ノ僅ニ其端緒ヲ知ルモノヲ取ラザル可カラズ、

如何トナレバ、実物ヲ示サズ、唯図画ノ力ニノミ因リ理解セシムルコトナレバ、嘗テ夢ニダモ知ラザルモノヲ掲ゲ出サバ、到底少年ヲシテ、其身ノ実地ニアルノ想像ヲ起サシムル能ワザレバナリ、尚此ニ注意ヲ要スル件ハ、男女ノ別、風俗ノ異、習慣ノ違等ナリ、男女ニヨリ、好ム処ノ動物ヲ別ニシ、喜ブ処ノ遊戯ヲ異ニスルハ、世人ノ常ニ経験スル処ニシテ、到底一事一物ヲ以テ、両性ニ充分適応セシムル能ワズ、故ニ此編ハ専ラ男性ニ適スルモノヲ取リテ、女子ノ喜ムト否ラザルトヲ問ワザルナリ、又風俗習慣ハ、各国各郡ニヨリ、大小ノ差アレバ、一々

之ニ適応セシムルコトハ、到底能ワザル所ナレバ、編者ハ、日本全国ニ尤モ広ク行キ渡リタル事物ト思慮スル処ノモノヲ取レリ、偖前段ニ述ベタル如ク、此編ハ、成ル可ク少年ノ心意ニ適応ス可キ事項ヲ記述セシモノナレバ、若シ之ヲ大人ニ一見セシムル時ハ、此書ハ実ニ馬鹿ゲタルモノナリトノ冷評ヲ受ク可シ、然シ其事実ノ大人ニ取リテハ、馬鹿ラシキ程少年ニ取リテハ、其価直ヲ増スモノナリ、果シテ其良否ヲ判決スルモノハ、何人ゾヤ、多年実地少年ノ教育ニ従事セシモノニ非ズシテ誰ソ、

次ニ、注意ス可キハ、文体ナリ、事実ノ尤モ少年ニ理解シ易キ文体ハ、談話体ナリ、然レドモ其体ハ多ク仮字ヲ以テ記載セザルヲ得ザルニヨリ、自然迂リ遠クナリテ読ミ悪キコトアルベシ、故ニ此編ハ、普通文体ニ雑ウルニ談話体ヲ以テシ、成ル可ク読ミ悪キ言語ヲ廃セリ、故ニ文章上ニ必要ナル、流暢ト艶麗トヲ択ブニ違アラザルナリ、其流暢艶麗ヲ欠クモ、更ニ顧ザルモノハ、例令江湖人士ノ噴飯ヲ招クモ、寧ロ少年子弟ノ笑顔ヲ求メント欲スルハ、編者ノ素志ナレバナリ、

次ニハ、文字ノ難易ヲ計ラザル可ラズ、然ラバ第二期少年子弟ノ記憶スル文字ハ、何ニヨリテ取調ブ可キヤ、惟世間尤モ広ク採用スル、尋常科読本ニヨルノ外無カル可キナリ、此読本ハ何ナルヤ、文部省編纂尋常科読本ナルベシ、若シ此書中ノ文字ヲ用イバ、例令他ノ読本ヲ採用スル県アルモ、大同小異ニシテ、格別ノ不都合ナカル可シ、故ニ此書ハ、文部省尋常科読本巻ノ三迄ノ文字ヲ使用シ、其傍ニ訓ヲ下シ、例令漢字ヲ忘却シタル少年ニテモ、学力、尋常科第二年以下ノモノニテモ、読下シ得可カラシム、其余ハ、多ク仮字ヲ使用スト雖モ、間々日用必須ノ文字ヲ交ウルコトアリ、是レ読書ノ習慣ヲ養成スルノ傍、幾分カ未知ノ文字ヲ知ラシメントノ微意ナリ、

次ニハ、事項ノ長短如何ヲ思慮ス可キナリ、第二期ノ初ニ当ル少年ハ、脳底ニ把住セシ智識ヲ構成シ、再現スルノ力ニ乏シケレバ、文章長キニ過グル時ハ、少年ヲシテ五里霧中ニ迷ウノ思アラシメ、徒ニ欠伸ヲ招クノミナラズ、遂ニハ之ヲ抛擲スルニ至ル可シ、是レ少年ノ心意活動甚シケレバ、新事新物ヲ嗜好シテ一物一事ヲ長ク玩弄スル能ワザレバナリ、因テ事柄ハ一篇ゴトニ、原因結果ヲ明瞭ニナスヲ最良シトスト雖、一二ノ関係ハ、後篇ニ続接セシムルヲ可トス、是レ他日少年ノ再ビ小説ヲ見ント欲スルノ念慮ヲ生ジ、之ヲ繙クニ当リテ、前篇中ニ記載シタル事ニ、一二ノ関係アルヲ認ムル時ハ、其成リ行ヲ探窮セント欲スルノ考ヲ起シ、喜テ之ヲ読下スルヲ以テナリ、然レドモ、前篇ト数多ノ関係ヲ持チ、或ハ前篇ニ於テ話ヲ結バズ、二篇ニ至リ突然之ヲ顕シ、或ハ前篇ニ於テ、二篇三篇ノ事ヲ記シ置ク抔ノコトアル時ハ、前ニ述タル如ク、少年ハ再現構成ノ力ニ乏シケレバ、之ヲ理解スルニ困苦シテ興味ヲ覚ユルコト能ザル可シ、故ニ此書ヲ四段ニ分チ、各篇ニ於テ結末ヲ付ケテ、極テ理解シ易キ僅少ノ事柄ノ外ハ、前篇ト関係ヲ持タシメザルナリ、

次ニハ、事項ノ排列ヲ整理スルコト、頗ル必要ナリ、前段ニ記述スル如ク、僅ニ見聞アル動物遊戯戦争等ノ話ハ、第二期ノ初ニ当ル少年ノ心意ニ尤モ適応スルモノナレバ、初篇ニハ、日常接近スル犬ノ事ヨリ話ヲ起シ、源義経平宗盛等源平両氏ノ戦争ヲ遊戯上ニ顕シ、又捕魚ノ遊事ニ移リ、此ニ一段ヲ結ビテ、尤モ簡短ナル仕方ニテ善ヲ勧メ悪ヲ懲セリ、二篇ニ至テハ、理学ノ端緒ヲ説キ示サント欲スルナレバ、初ニ少年ノ尤モ好ム処ノ遊散ノ快事ヨリ筆ヲ起シ、日常目撃スル事物ノ中ニ付キ、尤モ理解シ易ク略性質ヲ知了スル処ノ水ノ話ニ及ボシ、其次ニ、又雀ヲ捕ウルノ一事ヲ話シテ、前段ノ窮屈ヲ忘レシメ、次ニ学習上ノ遊戯即チ競進会ノ事ヲ記シ、此ニ筆ヲ止メ、此度ハ稍高尚ナル仕方ヲ用イテ、善悪ヲ著明ナラシメタリ、第三篇ハ、艱難

辛苦ヲ以テ事ヲ成就セシ日本人ノ事蹟ノ中ニ付キ、尤モ少年ニ適応ス可キモノヲ撰ビ、之ヲ学校事業ニ寄セテ記述シ、ソレヨリ忍勉ノ福利ト、慈善ノ必要ト、改過ノ緊要ト、悪業ノ結果トヲ記シテ、益勧善懲悪ノ意ヲ強固ナラシメ、第四篇ニ至リ勉強忍耐ヲ以テ倒山ノ苦覆海ノ辛ニモ撓マズ屈セズ、遂ニ一大事業ヲ成就シタル事ヲ述ベ、全篇ノ終ヲ結ベリ、

次ニハ、仮名遣ノ事ナリ、此篇ハ読書ノ習慣ヲ養成スル目的ナレバ、敢テ仮名遣等ニ注意セザルモ可ナルガ如シト雖、心意ノ軟弱ナル少年ニシテ、若シ誤謬ヲ正当ト認識スル時ハ、後来ニ大害ヲ及ボス可レバ、仮名遣ニ至リテハ、編者尤モ意ヲ用イタリ、終リニ当リテ尚一言ス可キ事アリ、字形ノ大小是ナリ、此度ノ募集ノ要件ニヨレバ、一葉十行二十字詰トアレバ、此ニハ其規ニ従ウト雖、若シ幸ニ此少年ノ玉ニシテ、明治教育社界ニ産出スルヲ得バ、最初ハ尚少シク文字ヲ大形ニナスノ心算ナリ、

巻一

第一編

ワン　ワンワン、キャンキャント、此ニカミ合ウ白黒ノ大ナル二疋ノ犬アリ、白犬ハトウトウ、黒犬ヲ押シフセ、頭ヤ、耳ヤ、足ヤ、ホウボウニカミ付キ、黒犬ハ、キャンキャント鳴キ居タリ、時ニ、西ノ方ヨリ、ザンギリ頭ヲフリ立テ、一人ノ子供ガ、長キ竹ヲ持チテ、此処ニ向イテ飛ビ来リケレバ、白犬ハ、ソレヲ見ルヨリ、東ノ方ヘ、一サンニ飛ビ去リタリ、黒ハ、キズノイタサニタエカネケン、白ノ後ヲモ追ワズ、ホウボウヨリ血ヲ流シ、足ヲヒキ、西ノ方ヘニゲ去レリ、此子供ハ、黒犬ノカイ主ニシテ、或処ニ住ム、奥山竹蔵ト云ウ金持ノ悴虎吉ト云ウモノナリ、虎吉ハ、黒ノホウボウニ、キズヲツケラレタルヲ見テ、イタクハラダチ、ドウカシテ白ヲ打チ殺サント思イ居タリ、或日虎吉ハ、近所ヘ使ニ行キシニ、其帰リ道ニテ、フト白犬ニアイケレバ、持合セタル芋ノ一切ヲ白ニ投ゲ与エ、ソレヲ食ベオワル頃、又一切ヲ与エ、次第次第ニ、自分ノ家ノ近処迄、連レ来リシニ丁度道端ニ縄ノ落チ居タレバ、スグ之ヲ拾イ、白ノ首ヲシカトシバリ、家ノ庭ニ引キ来リ、片隅ニアル松ノ木ニシバリ置キ、樫ノ棒ヲ持チ来リ、イタク犬ノ頭ヲ打チシニ、其場所ヤ悪カリケン、キャン……ト一声高ク鳴キ、グルグルグルト二三ベン廻リ、其処ニタオレ死セリ、

虎吉ハ、父母ニシカラレンコトヲ恐レ、犬ノ死骸ヲ家ノヨコ手ナル、人ノ往来少ナキ、ヤブグロニ、投出シ置ケリ、又虎吉ノ家ヨリ、遠カラヌ処ニ、水田米ト云ウ女アリ、其子ヲ国吉ト云ウ、前ニ虎吉ノ殺セシハ、此子供ノ犬ナリ、国吉ハ、白ノ昨日ヨリ家ニ帰ラヌニヨリ、イタク心配シ、其近処ヲタズネ廻リシニ、勉ト云ウ友達ニアイ、虎吉ガ、白ヲ昨日連レ行シコトヲ聞キシニヨリ、大ニ喜ビ、スグト虎吉ノ家ニ至リ、平日ノ如ク門前ニテ、(国)虎サン　(虎)ハイヨ　虎吉ハ、答エツツ其処ニ出デ来レリ、

(国)虎サンアナタハ、私ノ家ノ白ハ知リマセンカ、(虎)私ハスコシモ知リマセン、

(国)ソレデモ先刻勉サンハ、昨日アナタガ、白ヲ連レテ御往ナサレタト申シマシタヨ、(虎)勉サンハソウ云ッテモ、私ハスコシモ知リマセン、虎吉ハ、ソウ云イナガラ、家ヘ掛ケ入リタレバ、国吉ハ、ヨギナク家ニ帰ラント、道ヲカエ、此家ノヨコ手ヨリ往キシニ、向ウノヤブグロニ、白キモノ見ユルヨリ、急ギ行キ

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com